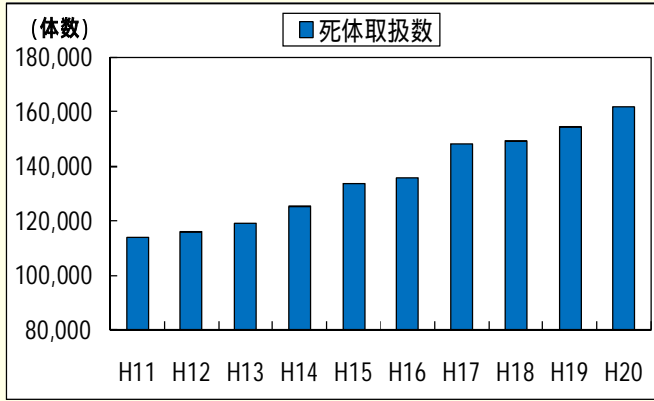


適正な死体取扱業務の推進

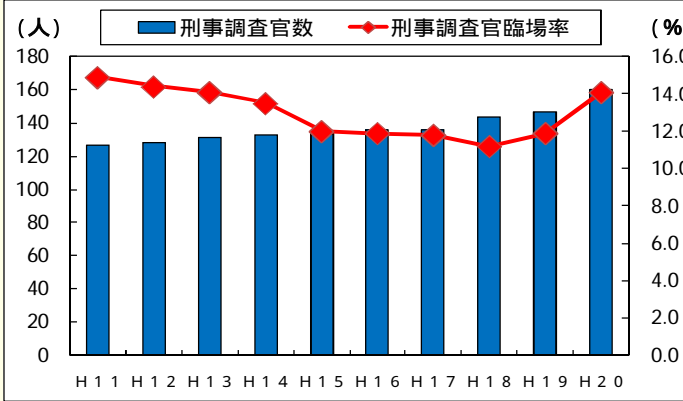
死体取扱業務の現状

死体取扱数の推移



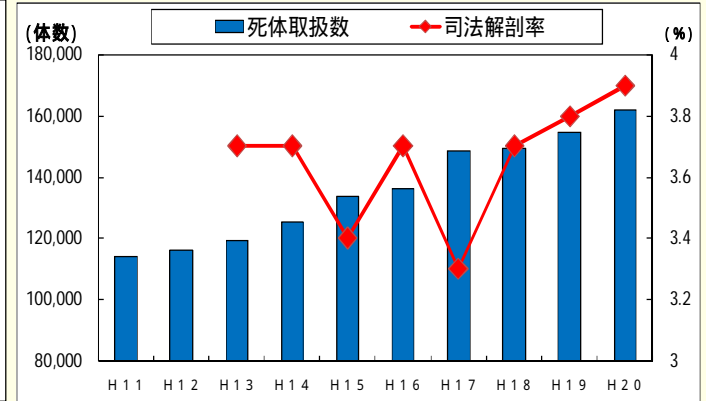
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
死体取扱数	114,267	116,164	119,396	125,403	133,922	136,092	148,475	149,239	154,579	161,838

刑事調査官数等の推移



	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
刑事調査官数	127	128	131	133	134	136	136	144	147	160
刑事調査官臨場率	14.9	14.4	14.1	13.5	12.0	11.9	11.8	11.2	11.9	14.1

司法解剖率等の推移



	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
死体取扱数	114,267	116,164	119,396	125,403	133,922	136,092	148,475	149,239	154,579	161,838
司法解剖率			3.7	3.7	3.4	3.7	3.3	3.7	3.8	3.9
司法+行政解剖率	9.0	10.5	9.7	9.7	8.9	9.5	9.1	9.4	9.4	9.7

問題点

検視の在り方

警察で取り扱う死体数が増加する中、刑事調査官の臨場率が減少

司法解剖の在り方

検視によって犯罪性に疑義が残る場合は司法解剖を実施するとの基本方針
死体数の増加に比し、解剖医の体制が不十分

行政解剖の在り方

行政解剖は、本来、検視・見分の段階において犯罪性の認められない死体についてなされるもの
これにより犯罪が発見される場合もあることから、行政解剖の充実(監察医制度の拡充)が必要
監察医制度は5地域に限定

適正な死体取扱業務の推進に向けた取組み

検視体制の強化

刑事調査官の増員
刑事調査官の補助者の増員

教養の充実

専科教養、巡回教養等、各種教養の充実
法医学専門研究科及び検視実務専科のカリキュラムの充実及び受講者の増員

資機材の整備、活用

CT(画像)検査装置及び薬物キットの活用
検視用具セット及び検視用カメラ等検視用装備資機材の整備